

# 株 主 各 位

広島市中区東千田町二丁目 9 番29号

広島電鉄株式会社

代表取締役社長 椋 田 昌 夫

## 第104回定時株主総会招集ご通知

拝啓 平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申しあげます。

さて、当社第104回定時株主総会を下記のとおり開催いたしますので、ご出席くださいますようご通知申しあげます。

**なお、当日ご出席願えない場合は、書面によって議決権を行使することができますので、お手数ながら後記の株主総会参考書類をご検討くださいます。同封の議決権行使書用紙に議案に対する賛否をご表示いただき、平成25年6月26日（水曜日）午後6時までに到着するよう折り返しご送付いただきたくお願い申しあげます。**

敬 具

### 記

1. 日 時 平成25年6月27日（木曜日）午前10時
2. 場 所 広島市中区東千田町二丁目9番29号  
広電本社ビル3階会議室（電車、広電本社前停留場下車）

### 3. 目的事項

#### 報告事項

1. 第104期（平成24年4月1日から平成25年3月31日まで）事業報告、計算書類および連結計算書類の内容報告の件
2. 会計監査人および監査役会の第104期連結計算書類監査結果報告の件

#### 決議事項

- |       |           |
|-------|-----------|
| 第1号議案 | 剰余金の配当の件  |
| 第2号議案 | 定款一部変更の件  |
| 第3号議案 | 取締役9名選任の件 |
| 第4号議案 | 監査役1名選任の件 |

以 上

-----  
当日の受付開始は午前9時15分を予定しております。

当日ご出席の際は、お手数ながら同封の議決権行使書用紙を会場受付にご提出くださいますようお願い申しあげます。

事業報告、計算書類、連結計算書類および株主総会参考書類の記載すべき事項を修正する必要が生じた場合には、修正後の事項をインターネット上の当社ウェブサイト（<http://www.hiroden.co.jp/>）に掲載いたしますのでご了承ください。

# 事 業 報 告

(平成24年4月1日から  
平成25年3月31日まで)

## I 株式会社 の 現況 に関する 事項

### 1. 事業の経過及びその成果

当事業年度におけるわが国経済は、欧州債務問題などによる世界経済の減速や、長引くデフレ、円高の影響などにより厳しい状況で推移したものの、政権交代以降、経済政策に対する期待感から、回復の兆しが見られました。

このような情勢のもと、当社におきましては、環境対策やバリアフリー化を推進し、安全で快適に暮らせる街づくりに取り組むための施策として、平成24年5月に公表した「サービス向上計画」に基づき、安全対策や利便性向上に積極的な投資を行い、引き続き安全・安心で良質なサービスの提供に努めました。

その結果、当事業年度の営業収益は前事業年度に比べ22.6%増の208億5,021万円、営業利益は5.8%増の11億3,886万円、経常利益は9.6%増の9億8,408万円、当期純利益は12.7%増の9億3,960万円となりました。

当事業年度における部門別営業の概況は次のとおりであります。

#### (1) 鉄・軌道事業

電車部門におきましては、車体の長さが18.6mの超低床車両1000形を2両導入し、平成25年2月より、横川線、江波線、白島線の各線で営業運転を開始いたしました。同じく平成25年2月には、本線と白島線の直通運行を開始し、利便性の向上に努めました。

施設面においては、平成24年12月に、市内線の本通電停は、ホームの延長と拡幅を行い安全性の向上を図りました。さらに、スロープ部の勾配をなだらかにしてバリアフリー化も行いました。また、輸送の安全確保を目的として、広島駅分岐器の交換、軌条の重レール化を実施し、保安度の向上に努めました。

そのほか、宮島線6駅と市内線3電停に新型ロケーション表示器を設置するとともに、パソコンや携帯端末で、全車両の到着予測時刻を確認することができる運行情報提供システムを、宮島線にも拡大し、更なる利便性の向上に努めました。

当事業年度の運輸成績を前事業年度と比較いたしますと、大河ドラマ「平清盛」効果による観光客の増加などにより、乗車人員は、鉄道部門で0.1%、9千人の増加で1,735万人、軌道部門では1.3%、48万人の増加で3,786万人となりました。旅客収入は、鉄道部門で、0.1%、139万円の増収で17億1,028万円、軌道部門では、1.3%、5,288万円の増収で40億9,688万円となりました。

この結果、広告収入などを含めた鉄・軌道事業営業収益は、2.3%増の63億2,166万円となり、1億3,733万円の営業利益となりました。

## (2) 自動車事業

自動車部門におきましては、平成24年4月1日より旧呉市交通局のバス路線を承継し、運行エリアが広がり、広島都市圏における公共交通機関としての使命は、より一層重いものとなりました。

呉地区の運行では、営業所を4カ所新設し、運転士と車両を分散配置することで無駄な回送運行を削減し、運行の効率化を図るとともに、乗車券発売窓口の増設、営業時間の延長などにより、サービスの向上に努めました。

広島地区の運行では、花の季台・こころ団地線において、路線延長による新たな需要の取り込みや、朝夕ラッシュ時間帯の増便により利便性の向上を図りました。また、空港リムジン線において、広島市と協力した社会実験運行や、平和大通り沿線のホテルと連携した平和大通り～広島空港線の運行を開始し、顧客の獲得に努めました。

そのほか、グループ企業である㈱広電ストアと連携し、マダムジョイ楽々園店と五月が丘団地を結ぶ買物貸切バスを運行し、お客様サービスの向上に努めました。

車両更新につきましては、CNG（圧縮天然ガス）ノンステップバス5両を含むノンステップバス29両を導入し、バリアフリー化と環境対策を推進いたしました。

当事業年度の運輸成績を前事業年度と比較いたしますと、呉地区のバス路線を承継したことなどにより、乗車人員は35.5%、1,241万人の増加で4,741万人、旅客収入は28.4%、22億8,473万円の増収で103億4,023万円となりました。

この結果、広告収入などを含めた自動車事業営業収益は、28.1%増の107億8,001万円となり、1億9,554万円の営業利益となりました。

## (3) 不動産事業

不動産部門におきましては、賃貸事業では空室率の上昇や賃料の下落が続く厳しい状況のなか、平成24年2月に竣工した広島市中区紙屋町の「広島トランヴェールビルディング」の全テナントが、11月に入居を完了したことなどにより、当事業年度の賃貸収入は、前事業年度と比較いたしますと22.8%増の21億155万円となりました。

販売事業では、平成24年7月より広島市佐伯区の「石内東地区開発事業」の造成工事に着手、9月には土地利用区画の中核となる商業用地について、大手流通業者と不動産販売契約を締結いたしました。また、マンション事業においては、平成25年3月に広島市南区の「アンヴェール比治山公園」が竣工し、入居者への引き渡しを行ったことなどにより、当事業年度の販売収入は、前事業年度と比較いたしますと、132.3%増の16億4,696万円となりました。

この結果、不動産事業営業収益は、54.9%増の37億4,852万円となり、8億598万円の営業利益となりました。

## 2. 対処すべき課題

今後の経済見通しにつきましては、一部に明るい兆しも見えてまいりましたが、少子高齢化、就業人口の減少、消費税率の引き上げ等、先行き厳しい状況が予想されます。

このような情勢のもと、電車部門におきましては、駅や電停の整備、低床車両の計画的導入などバリアフリー化を図るとともに、列車無線や運行記録装置などの運転保安設備の整備や、重レール化、軌道整備等を実施し、保安度の向上に努めてまいります。

自動車部門におきましては、引き続き収支改善を図るため、各路線の利用状況や需要動向に応じた運行ダイヤの見直しと輸送の効率化に努めてまいります。呉地区の運行につきましては、お客様の利用状況やニーズを詳細に調査し、安全・安心できめ細やかな輸送サービスの提供に努めてまいります。設備面では、バリアフリー車両や環境負荷の低い低公害車両への計画的な代替、バスロケーションシステム導入の検討、バス停留所の上屋の改善・整備を推進してまいります。

不動産部門におきましては、賃貸事業では、賃貸条件等で柔軟な対応を行い、空室率の改善に努め、築年数の経ったビルのリニューアルや遊休地の有効活用策を進めてまいります。販売事業では、「石内東地区開発事業」を引き続き進めてまいります。

また、当社を中心とした広電グループは、新たに経営総合3ヵ年計画を策定し、安全性の確保を前提に、様々な経営課題に取り組むとともに、経済環境の変化への迅速な対応、安定した利益の確保、厳しい計数管理と経費削減への取り組みなどに努め、引き続き皆様に愛される企業グループを目指してまいります。

株主の皆様におかれましては、引き続きご支援ご愛顧を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

## 3. 設備投資の状況

当事業年度において実施した設備投資の総額は42億6,432万円であり、主なものは次のとおりであります。

|        |                 |     |
|--------|-----------------|-----|
| 鉄・軌道事業 | 国産超低床電車購入       | 2両  |
|        | 広電廿日市駅通線整備工事    |     |
|        | 宮島線ロケーションシステム更新 |     |
| 自動車事業  | 乗合車両購入          | 67両 |
| 不動産事業  | 国泰寺賃貸ビル購入       |     |

## 4. 資金調達の状況

当事業年度の資金調達につきましては、第39回の社債発行や、シンジケートローン組成等の借入金により資金調達を行っております。なお、当事業年度末現在の社債を含めた借入金総額は188億3,249万円、前事業年度末と比べ2億9,145万円減少しております。

## 5. 財産及び損益の状況

| 区 分                 | 第 101 期                   | 第 102 期                   | 第 103 期                   | 第 104 期<br>(当事業年度)        |
|---------------------|---------------------------|---------------------------|---------------------------|---------------------------|
|                     | 自平成21年4月1日<br>至平成22年3月31日 | 自平成22年4月1日<br>至平成23年3月31日 | 自平成23年4月1日<br>至平成24年3月31日 | 自平成24年4月1日<br>至平成25年3月31日 |
| 売 上 高 (千円)          | 16,348,953                | 17,102,483                | 17,012,003                | 20,850,214                |
| 経 常 利 益 (千円)        | 351,115                   | 930,665                   | 897,959                   | 984,081                   |
| 当 期 純 利 益 (千円)      | 165,793                   | 705,384                   | 833,609                   | 939,602                   |
| 1 株 当 た り 当 期 純 利 益 | 2円73銭                     | 11円61銭                    | 13円72銭                    | 15円46銭                    |
| 総 資 産 (千円)          | 70,996,263                | 70,758,770                | 75,926,253                | 77,797,095                |
| 純 資 産 (千円)          | 26,242,989                | 26,623,210                | 29,053,638                | 30,191,894                |

## 6. 主要な事業内容 (平成25年3月31日現在)

### (1) 鉄・軌道事業

#### イ. 鉄 道 事 業

| 線 名   | 営業キロ    | 区 間             | 駅 数              | 車 両 数            |
|-------|---------|-----------------|------------------|------------------|
| 宮 島 線 | 16.1 km | 広電西広島(己斐)～広電宮島口 | 21 <sup>カ所</sup> | 153 <sup>両</sup> |

#### ロ. 軌 道 事 業

| 線 名   | 営業キロ   | 区 間             | 停留場数             | 車 両 数 |
|-------|--------|-----------------|------------------|-------|
| 本 線   | 5.4 km | 広 島 駅～広電西広島(己斐) | 19 <sup>カ所</sup> |       |
| 宇 品 線 | 5.9    | 紙屋町東～広島港(宇品)    | 19               |       |
| 横 川 線 | 1.4    | 十日市町～横川駅        | 5                |       |
| 江 波 線 | 2.6    | 土 橋～江 波         | 6                |       |
| 皆 実 線 | 2.5    | 的 場 町～皆実町六丁目    | 7                |       |
| 白 島 線 | 1.2    | 八 丁 堀～白 島       | 5                |       |
| 計     | 19.0   |                 | 61               |       |

(2) 自動車事業  
イ. 乗合自動車事業

事業区域は、広島市および呉市を中心に広島県西部および北部、ならびに  
高速道經由米子・松江・浜田の各線

|      |         |    |
|------|---------|----|
| 総系統数 | 434     | 系統 |
| 営業キロ | 1,418.5 | km |
| 車両数  | 556     | 両  |

ロ. 貸切自動車事業

事業区域は、広島県全域および山口県、島根県の各一部  
観光バスおよび会員バスの運行

|     |    |   |
|-----|----|---|
| 車両数 | 14 | 両 |
|-----|----|---|

(3) 不動産事業

不動産賃貸  
造成宅地および建売住宅の販売  
不動産売買および賃貸物件のあっ旋

7. 主要な事業所 (平成25年3月31日現在)

|   |   |                   |
|---|---|-------------------|
| 本 | 社 | 広島市中区東千田町二丁目9番29号 |
|---|---|-------------------|

鉄・軌道事業

|        |           |
|--------|-----------|
| 西広島運転課 | 広島市西区草津南  |
| 千田運転課  | 広島市中区東千田町 |

自動車事業

|        |           |
|--------|-----------|
| 曙営業課   | 広島市東区曙    |
| 仁保営業課  | 広島市南区仁保沖町 |
| 江波営業課  | 広島市中区江波西  |
| 広島南営業課 | 広島市中区西白島町 |
| 広島西営業課 | 広島市中区西白島町 |
| 広島中営業課 | 広島市西区小内町  |
| 広島北営業課 | 広島市西区小内町  |
| 呉中央営業課 | 広島県呉市築地町  |
| 広島営業課  | 広島県呉市広白岳  |
| 焼山営業課  | 広島県呉市焼山北  |

不動産事業

|   |   |           |
|---|---|-----------|
| 本 | 店 | 広島市中区東千田町 |
|---|---|-----------|

## 8. 使用人の状況（平成25年3月31日現在）

| 使用人数   | 前事業年度末比増減 | 平均年齢  | 平均勤続年数 |
|--------|-----------|-------|--------|
| 1,569名 | +218名     | 45.8歳 | 16.3年  |

- (注) 1. 出向者45名を含み、休職者9名、労働組合専従者6名、臨時雇・嘱託195名を含んでおりません。  
2. 使用人数の増加の主な理由は、呉地区のバス事業を承継したことによるものです。

## 9. 重要な子会社の状況（平成25年3月31日現在）

| 会社名       | 資本金       | 出資比率 | 主要な事業内容 |
|-----------|-----------|------|---------|
| 広電不動産株式会社 | 120,000千円 | 100% | 不動産賃貸業  |
| 株式会社広電ストア | 96,000    | 100  | 物品販売業   |
| 広電建設株式会社  | 50,000    | 100  | 土木・建築業  |

- (注) 広電不動産株式会社は、平成25年4月1日付で、当社との吸収合併により消滅いたしました。

## 10. 主要な借入先及び借入額（平成25年3月31日現在）

| 借入先           | 借入残高        |
|---------------|-------------|
| 株式会社広島銀行      | 6,129,675千円 |
| 株式会社三菱東京UFJ銀行 | 4,236,519   |
| 三井住友信託銀行株式会社  | 2,111,155   |
| 三菱UFJ信託銀行株式会社 | 1,513,745   |
| 株式会社日本政策投資銀行  | 833,100     |
| 日本生命保険相互会社    | 756,125     |
| 株式会社みずほ銀行     | 708,870     |

## 11. その他企業集団の現況に関する重要な事項

当社は、平成25年1月30日開催の取締役会において、当社の100%子会社である広電不動産株式会社を消滅会社とする吸収合併を決議し、平成25年4月1日をもちまして、同社は解散いたしました。

## Ⅱ 株式に関する事項（平成25年3月31日現在）

### 1. 株式の状況

- |                |                      |
|----------------|----------------------|
| (1) 発行可能株式総数   | 240,000千株            |
| (2) 発行済株式の総数   | 60,891千株             |
| (3) 当事業年度末の株主数 | 3,941 名（前事業年度末比19名増） |

### 2. 大株主の状況（上位11名）

| 株 主 名                         | 持 株 数                   | 持 株 比 率 |
|-------------------------------|-------------------------|---------|
| 株 式 会 社 広 島 銀 行               | 2,088 <small>千株</small> | 3.4 %   |
| 株式会社三菱東京UFJ銀行                 | 1,755                   | 2.9     |
| 広島日野自動車株式会社                   | 1,591                   | 2.6     |
| みずほ信託銀行株式会社<br>退職給付信託 五洋建設口   | 1,515                   | 2.5     |
| 出光興産株式会社                      | 1,500                   | 2.5     |
| 株 式 会 社 鴻 治 組                 | 1,403                   | 2.3     |
| 広 島 ガ ス 株 式 会 社               | 1,236                   | 2.0     |
| 三井住友海上火災保険株式会社                | 1,170                   | 1.9     |
| 日本興亜損害保険株式会社                  | 840                     | 1.4     |
| 野村信託銀行株式会社(退職給付信託・三菱UFJ信託銀行口) | 750                     | 1.2     |
| 日 野 自 動 車 株 式 会 社             | 750                     | 1.2     |

- (注) 1. 持株比率は、自己株式(129,388株)を控除して計算しております。
2. 株式会社広島銀行の持株数には、株式会社広島銀行が退職給付信託の信託財産として  
 拠出している当社株式1,605千株(持株比率2.6%)を含んでおります(株主名簿上の  
 名義は「みずほ信託銀行株式会社 退職給付信託 広島銀行口」であります)。なお、  
 当該株式は、信託約款の定めにより株式会社広島銀行が議決権を留保しております。



### Ⅲ 会社役員に関する事項

#### 1. 取締役及び監査役の状況 (平成25年3月31日現在)

| 地 位       | 氏 名     | 担 当                                     | 重要な兼職の状況   |
|-----------|---------|---|--|
| 代表取締役社長   | 椋 田 昌 夫 | 電車開業100周年記念事業<br>アウトソーシング推進<br>呉バスカンパニー | (株)広電ストア 代表取締役会長<br>(株)ホテルニューヒロデン 代表取締役社長<br>広電興産(株) 代表取締役社長<br>広島ゴルフ観光(株) 代表取締役社長 |
| 取 締 役     | 名 越 元   | 不動産カンパニー<br>プレジデント                      | 広電不動産(株) 代表取締役社長   |
| 取 締 役     | 岡 本 繁   | バスカンパニー<br>プレジデント                       | (株)グリーンバース・ヒロデン 代表取締役社長  |
| 取 締 役     | 倉 本 勇 治 | M・Sカンパニー<br>プレジデント                      |  |
| 取 締 役     | 藤 元 秀 樹 | 電車カンパニー<br>プレジデント                       |  |
| 取 締 役     | 沼 田 卓 壮 | 総合企画                                    |  |
| 取 締 役     | 田 中 栄 治 | 経営政策<br>不動産カンパニー<br>バイスプレジデント           | (株)ヒロデンプラザ 代表取締役社長   |
| 取 締 役     | 田 村 興 造 |   | 広島ガス(株) 代表取締役社長<br>執行役員  |
| 取 締 役     | 越 智 秀 信 |   | (株)交通会館 代表取締役社長  |
| 常 勤 監 査 役 | 迫 孝 治   |   |  |
| 監 査 役     | 笠 井 久 雄 |   |  |
| 監 査 役     | 高 橋 徹   |   |  |

- (注) 1. 取締役田村興造氏は、社外取締役であります。  
 2. 監査役笠井久雄氏および高橋徹氏は、社外監査役であります。  
 3. 当社は、株式会社東京証券取引所に対して、笠井久雄氏を独立役員とする独立役員届出書を提出しております。  
 4. 当事業年度中の役員の異動は次のとおりであります。  
 (1)平成24年6月28日開催の第103回定時株主総会において、田村興造氏は取締役に、高橋徹氏は補欠として監査役に、新たに選任され、それぞれ就任いたしました。  
 (2)同日開催の第103回定時株主総会終結の時をもって、監査役榎尾誠氏は辞任により退任いたしました。  
 (3)平成25年1月8日開催の取締役会において、代表取締役社長越智秀信氏は取締役にとなり、専務取締役椋田昌夫氏が代表取締役社長に就任いたしました。

5. 当事業年度末日後の役員の異動は次のとおりであります。

取締役の地位・担当の異動

| 異動年月日     | 氏名   | 異動後の地位・担当           | 異動前の地位・担当  |
|-----------|------|---------------------|--|
| 平成25年4月1日 | 椋田昌夫 | 代表取締役社長<br>呉バスカンパニー | 代表取締役社長<br>電車開業100周年記念事業<br>アウトソーシング推進<br>呉バスカンパニー |
| 平成25年4月1日 | 田中栄治 | 取締役<br>経営政策         | 取締役<br>経営政策<br>不動産カンパニー<br>バイスプレジデント               |

6. 広電不動産株式会社は、平成25年4月1日付で、当社との吸収合併により消滅いたしました。

(参考)

当社は、執行役員制度を導入しております。執行役員の地位・担当は次のとおりです。

| 氏名   | 地位   | 担当             |
|------|------|----------------|
| 仮井康裕 | 執行役員 | 呉バスカンパニープレジデント |

(注) 当事業年度末日後、次のとおり執行役員に就任いたしました。

| 就任年月日     | 氏名   | 地位   | 担当               |
|-----------|------|------|------------------|
| 平成25年4月1日 | 落合央範 | 執行役員 | 秘書グループマネジャー      |
| 平成25年4月1日 | 横田好明 | 執行役員 | 総合企画グループマネジャー    |
| 平成25年4月1日 | 岡田茂  | 執行役員 | 経理管理グループマネジャー    |
| 平成25年4月1日 | 平町隆典 | 執行役員 | 電車輸送企画グループマネジャー  |
| 平成25年4月1日 | 瀬崎敏正 | 執行役員 | 不動産第二営業グループマネジャー |

## 2. 当事業年度に係る取締役及び監査役の報酬等の総額

| 区 分              | 支給人員       | 支給額                   | 摘 要 |
|------------------|------------|-----------------------|-----|
| 取締役<br>(うち社外取締役) | 9 名<br>(1) | 121,259 千円<br>(3,600) |     |
| 監査役<br>(うち社外監査役) | 4<br>(3)   | 29,928<br>(12,615)    |     |
| 計                | 13         | 151,187               |     |

- (注) 1. 取締役の支給額には、使用人兼務取締役の使用人分給与は含まれておりません。  
 2. 上記支給人員および支給額には当事業年度中に退任いたしました社外監査役1名1,770千円を含めております。  
 3. 平成24年6月28日開催の第103回定時株主総会決議にもとづく報酬限度額は、取締役年額250,000千円以内、監査役年額50,000千円以内であります。  
 4. 上記以外に平成24年6月28日開催の第103回定時株主総会の決議により役員退職慰労金(退任取締役1名に対し140,200千円、退任社外監査役1名に対し5,300千円)を支給しております。

## 3. その他会社役員に関する重要な事項

当社は、平成25年1月8日開催の取締役会において、代表取締役社長越智秀信氏は解職により取締役となり、後任として専務取締役椋田昌夫氏が代表取締役社長に選定され就任し、経営体制の刷新を図りました。

## 4. 社外役員に関する事項

### (1) 重要な兼職先と当社との関係

取締役の田村興造氏は、広島ガス株式会社代表取締役社長執行役員を兼務しております。同社は、当社と一般消費者としての通常の取引を行っております。同社は当社株式数の2%を保有する大株主であります。

### (2) 当事業年度における主な活動状況

| 区 分 | 氏 名  | 主 な 活 動 状 況  |
|-----|------|--|
| 取締役 | 田村興造 | 平成24年6月28日の就任以降開催された取締役会14回のうちの11回に出席し、取締役の立場で適宜意見を述べております。          |
| 監査役 | 笠井久雄 | 当事業年度開催の取締役会18回、監査役会7回の全てに出席し、監査役の立場で適宜意見を述べております。                   |
| 監査役 | 高橋徹  | 平成24年6月28日の就任以降開催された取締役会14回のうち13回、監査役会5回の全てに出席し、監査役の立場で適宜意見を述べております。 |

(3) 責任限定契約の内容の概要

当社は、会社法第427条第1項の規定により、社外役員との間に、任務を怠ったことによる損害賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく責任の限度額は、法令が規定する額としております。

## Ⅳ 会計監査人に関する事項

### 1. 会計監査人の名称

有限責任 あずさ監査法人

### 2. 報酬等の額

| 内 容                               | 金 額      |
|-----------------------------------|----------|
| ① 報酬等の額                           | 36,000千円 |
| ② 当社及び当社子会社が支払うべき金銭その他の財産上の利益の合計額 | 36,000千円 |

- (注) 1. 当社と会計監査人との間の監査契約において、会社法にもとづく監査と金融商品取引法にもとづく監査の監査報酬の額を区分しておりませんので、①の金額には金融商品取引法にもとづく監査の報酬等の額を含めております。
2. 当社の子会社の広島観光開発株式会社は、当社の会計監査人以外の監査法人の計算関係書類の監査を受けております。

### 3. 解任または不再任の決定の方針

当社監査役会が会社法第340条第1項各号に定める解任事由に該当すると判断した場合。

## Ⅴ 業務の適正を確保するために必要な体制の整備に関する基本方針

当社は、会社法及び会社法施行規則に基づき、業務の適正を確保するために必要な体制の整備に関する基本方針について次のとおり定め、本方針に従い適法かつ効率的な企業活動を推進しております。

なお、本方針は、平成24年4月18日開催の取締役会において改定決議を行ったものであります。

### 1. 取締役及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

取締役が重要事案の決定を行うにあたっては、法令及び定款に則り定めた取締役会規程及び経営会議規程に基づき、取締役会や経営会議において適法性・妥当性の有無をはじめとした総合的な検討を行う。また、取締役は、取締役会や経営会議において職務の執行に関する報告を迅速に行い、他の取締役は報告された内容に対し法令及び定款の遵守の状況を監督する。

使用人が日常の職務を執行するにあたっては、業務の組織的かつ効率的な運営を図るために定めた職務権限規程に基づき、稟議手続規程に従って起案した決裁文書により意思決定を行い、会社組織として適法・適正に職務を執行する。

当社は、財務報告の作成及び開示にあたっては、有効な内部統制システムの整備・運用を行い、財務報告の適正性を確保する。また、取締役会規程及び経営会議規程その他の社内規程について、規程類等管理規程に定める手続きに従い、常に最新の法令に基づき改正を行い、取締役及び使用人への周知徹底に努める。

当社は、警察や顧問弁護士等と連携し、市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力及び団体とは一切の関係を持たず、毅然とした態度で対応する。

## **2. 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制**

株主総会議事録、取締役会議事録及び経営会議開催記録については、法令及び社内規程に基づき作成し、職務所管部署において適切に保存・管理する。

取締役会及び経営会議に付議し承認された議案書及び決裁文書については、各起案部署において適切に保存・管理する。

契約書等、取締役の職務の執行に係る重要な文書については、契約締結部署、職務所管部署において適切に保存・管理する。

株主総会議事録はもとより、取締役会議事録、経営会議開催記録をはじめとした取締役の職務の執行にあたっての意思決定を記録した文書、契約書等、取締役の職務の執行に係る重要な文書の保存・管理については、その方法・年限等を定めた文書管理規程に基づき適切に行う。

## **3. 損失の危険の管理に関する規程その他の体制**

全社的リスクや緊急対応を要するリスクが発生した場合には、代表取締役社長はリスク対応統括責任者として各取締役を指揮し、各取締役はリスク対応統括責任者のもとで担当部門を指揮することにより、リスク発生による損害を最小限に止める。

電車・バス事業におけるリスクについては、第一の使命である安全運行を確保するため、電車、バス部門ごとに制定した安全管理規程をはじめとする社内規程に基づき、リスクの発生時には迅速かつ的確に対応する。また、各部門の指導・教育担当部署は、使用人に対し、定期的にリスク発生の回避及びリスク発生時の損害を最小限に止めるための迅速な対応について指導・教育を行う。

不動産事業におけるリスクについては、土地・建物の賃貸・販売及び保有により発生が予想されるリスクを抽出し、リスク発生時の迅速かつ的確な対応をあらかじめ想定することにより、リスク発生の回避及びリスク発生時の損害を最小限に止めるように努める。

当社が行う事業における新たな事業機会の検討・実施にあたっては、想定されるリスクについて必要に応じて外部の専門家の意見・助言を取り入れながら十分な検討を行い、事業の実施にあたっては、想定されるリスクを排除しまたはでき得る限り縮小させたいうで実施する。

取締役、執行役員及びその他の使用人は、職務の執行の過程におけるリスクを回避するため、法律上の判断を要する場合には顧問弁護士に、会計上の判断を要する場合には会計監査人にそれぞれ適宜相談し、得られた助言・提案をもとに職務を行う。

#### 4. 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

当社は、電車、バス、不動産及びM・S（マネジメントアンドサポート：業務管理及び支援）部門からなるカンパニー制を採用し、カンパニーごとに採算性を重視した経営を行う。また、会社組織全体としての業績管理とカンパニーを横断した業務を行うため、カンパニーから独立した組織として経営政策、総合企画の2グループを設ける。各カンパニー及び上記2グループの業務執行責任者は取締役または執行役員が務め、意思決定の迅速化と業務執行の効率化を図る。

当社は、取締役の職務執行を効率的に行うため、取締役会については毎月1回以上、経営会議については原則として毎週開催し、取締役相互による活発な議論を経たいうで重要事案に対する意思決定を行う。

また、取締役会決議により、取締役に準ずる地位を有する重要な使用人として執行役員を選任し、代表取締役の指揮命令のもとで会社の重要な特定の業務を執行させることにより、効率的な経営を行う。

取締役は、経営環境の変化への迅速な対応と安定した収益構造の構築を目的として策定した経営総合5ヵ年計画を着実に推進しつつ、進捗状況について定

期的にフォローアップを行い、適正かつ効率的な経営により利益の確保に努める。

#### **5. 当社及びその子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制**

当社は、関係会社の運営管理において、総合企業体としての利益を確保するために関係会社統括要綱を定め、関係会社各社の自主的経営を尊重しつつ、重要事案の決定にあたっては当社への事前協議を求め、また、経営上の重要事項については当社への報告を求める。これらの協議・報告について、当社は必要に応じて当該内容の適法性・妥当性について確認を行い、場合によっては顧問弁護士や会計監査人に相談の上、総合企業体として適法・適正に業務を執行する。

当社は、監査グループ及び弁護士事務所を内部通報窓口とする企業倫理ヘルプラインの運用等を通じ、当社及び関係会社各社における組織的または個人的な法令違反及び不正行為等の早期発見と是正を図る。

当社を含めた関係会社各社は、企業集団としての収益性の向上を図るため、必要に応じて関係会社社長会を開催し、情報共有と相互協力により、関係会社各社における適正かつ効率的な業務の推進に努める。

重要な関係会社は、当社に準じて経営総合5ヵ年計画を策定し、適正かつ効率的な経営により利益の確保に努める。

#### **6. 監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項及び使用人の取締役からの独立性に関する事項**

当社は、各カンパニーから独立した部署である監査グループが内部監査を担当しており、監査役は、職務を補助する者として、監査グループ所属員を直接使用することができる。

監査グループ所属員の人事異動に関する事項については、人事担当取締役は事前に監査役と協議するものとする。

#### **7. 取締役及び使用人が監査役に報告をするための体制その他の監査役への報告に関する体制**

取締役、執行役員及びその他の使用人は、いつでも監査役の求めに応じて職務の執行状況を報告する。

また、職務執行の過程において、会社に著しい損害を及ぼすおそれのある事実、法令及び定款に違反するおそれのある事実その他重大な疑義が生じた場合には、

監査役へ速やかに報告を行う。

重要な決裁文書については、稟議手続規程に基づき、速やかに常勤監査役へ通知する。

## 8. その他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制

各監査役は、監査役会が定めた監査の方針にしたがい、取締役会及び経営会議その他の重要な会議に出席し、重要事案に対する協議の内容や意思決定の過程を把握するとともに、取締役及び執行役員がこれらの重要な会議で適宜行う業務執行の状況報告を聴取する。

なお、取締役、執行役員及びその他の使用人は、重要な会議の開催にあたり、必要に応じて監査役へ事前に通知し、監査役の取締役、執行役員及びその他の使用人の職務執行に対する監査の機会を確保する。

当社は、代表取締役社長と監査役との情報交換会を、年2回定期的に開催する。

また、上半期・下半期ごとに行われる監査役による定期監査では、課長、チームリーダー並びにグループマネージャーへのヒアリングを実施し、日常の職務執行に関する詳細な聴取を行い、定期監査終了後に監査結果の報告及び取締役に対する職務執行についてのヒアリングを行う目的で、各取締役及び執行役員と監査役との間で情報交換会を開催する。

---

※ 本事業報告に記載の金額および株式数は、表示単位未満を切り捨てております。  
また、比率は、表示単位未満を四捨五入しております。



# 貸借対照表

（平成25年3月31日現在）

（単位：千円）

| 科 目           | 金 額        | 科 目             | 金 額        |
|---------------|------------|-----------------|------------|
| <b>(資産の部)</b> |            | <b>(負債の部)</b>   |            |
| <b>流動資産</b>   | 15,072,803 | <b>流動負債</b>     | 16,818,514 |
| 現金及び預金        | 3,362,624  | 短期借入金           | 7,432,868  |
| 未収金           | 171,418    | 1年内償還予定の社債      | 210,000    |
| 未収金           | 1,799,889  | 未払費用            | 2,913,944  |
| 未収金           | 31,434     | 未払税金            | 580,886    |
| 短期貸付金         | 4,706      | 未払法人税等          | 646,718    |
| 販売土地及び建物      | 8,596,772  | 未払消費税等          | 288,665    |
| 貯蔵品           | 338,703    | 預り連絡運賃          | 64,044     |
| 前払費用          | 328,622    | 預り金             | 908,708    |
| 前払費用          | 6,439      | 前受運賃            | 230,501    |
| 繰延税金資産        | 426,238    | 前受金             | 2,551,025  |
| その他の流動資産      | 6,154      | 前受取益            | 80,384     |
| 貸倒引当金         | △ 200      | 賞与引当金           | 827,422    |
|               |            | その他の流動負債        | 83,343     |
| <b>固定資産</b>   | 62,724,291 | <b>固定負債</b>     | 30,786,687 |
| 鉄道事業固定資産      | 11,692,924 | 社債              | 356,250    |
| 自動車事業固定資産     | 11,982,173 | 長期借入金           | 10,833,376 |
| 不動産事業固定資産     | 30,569,492 | 繰延税金負債          | 643,886    |
| 各事業関連固定資産     | 1,941,099  | 再評価に係る繰延税金負債    | 11,684,660 |
| 建設仮勘定         | 3,356      | 退職給付引当金         | 974,803    |
| 投資その他の資産      | 6,535,244  | 債務保証損失引当金       | 2,998,000  |
| 関係会社株式        | 1,403,025  | 関係会社事業損失引当金     | 1,714,000  |
| 投資有価証券        | 3,630,996  | その他の固定負債        | 1,581,709  |
| 長期貸付金         | 12,767     |                 |            |
| 前払年金費用        | 1,315,895  | <b>負債合計</b>     | 47,605,201 |
| その他の投資等       | 530,158    |                 |            |
| 貸倒引当金         | △ 357,600  | <b>(純資産の部)</b>  |            |
|               |            | <b>株主資本</b>     | 8,101,405  |
|               |            | 資本              | 2,335,625  |
|               |            | 資本剰余金           | 1,975,922  |
|               |            | 資本準備金           | 1,971,884  |
|               |            | その他資本剰余金        | 4,037      |
|               |            | 利益剰余金           | 3,841,043  |
|               |            | 利益準備金           | 225,000    |
|               |            | その他利益剰余金        | 3,616,043  |
|               |            | 特別償却準備金         | 43,568     |
|               |            | 圧縮積立金           | 5,843      |
|               |            | 繰越利益剰余金         | 3,566,631  |
|               |            | 自己株式            | △ 51,185   |
|               |            | <b>評価・換算差額等</b> | 22,090,489 |
|               |            | その他有価証券評価差額金    | 1,059,247  |
|               |            | 土地再評価差額金        | 21,031,241 |
|               |            | <b>純資産合計</b>    | 30,191,894 |
| <b>資産合計</b>   | 77,797,095 | <b>負債純資産合計</b>  | 77,797,095 |

# 損 益 計 算 書

(平成24年4月1日から平成25年3月31日まで)

(単位：千円)

| 科 目            | 金          | 額         |
|----------------|------------|-----------|
| 鉄・軌道事業         |            |           |
| 営業収益           | 6,321,669  |           |
| 営業費            | 6,184,334  |           |
| 営業利益           |            | 137,335   |
| 自動車事業          |            |           |
| 営業収益           | 10,780,019 |           |
| 営業費            | 10,584,472 |           |
| 営業利益           |            | 195,546   |
| 不動産事業          |            |           |
| 営業収益           | 3,748,525  |           |
| 営業費            | 2,942,541  |           |
| 営業利益           |            | 805,984   |
| 全事業営業利益        |            | 1,138,866 |
| 営業外収益          |            |           |
| 受取利息及び配当金      | 108,649    |           |
| その他の収益         | 222,581    |           |
| 営業外費用          |            | 331,231   |
| 支払利息           | 274,147    |           |
| その他の費用         | 211,868    |           |
| 費用             |            | 486,016   |
| 経常特別利益         |            | 984,081   |
| 固定資産売却益        | 42,351     |           |
| 工事負担金等受入額      | 1,563,330  |           |
| その他            | 129,481    |           |
| 損失             |            | 1,735,163 |
| 特別損失           |            |           |
| 固定資産圧縮損失       | 932,386    |           |
| 減損損失           | 57,556     |           |
| 投資有価証券評価損      | 60,547     |           |
| 関係会社事業損失引当金繰入額 | 60,000     |           |
| 損失             |            | 1,110,490 |
| 税引前当期純利益       |            | 1,608,754 |
| 法人税、住民税及び事業税   | 659,077    |           |
| 法人税等調整額        | 10,074     |           |
| 調整額            |            | 669,151   |
| 当期純利益          |            | 939,602   |

# 株主資本等変動計算書

(平成24年4月1日から平成25年3月31日まで)

(単位：千円)

|                         | 株 主 資 本   |               |                      |                    |               |             |           |             |             |                    | 自己<br>株式 | 株主<br>資本<br>合計 |
|-------------------------|-----------|---------------|----------------------|--------------------|---------------|-------------|-----------|-------------|-------------|--------------------|----------|----------------|
|                         | 資本金       | 資本剰余金         |                      |                    | 利益<br>準備<br>金 | 利益剰余金       |           |             |             | 利益<br>剰余<br>金<br>計 |          |                |
|                         |           | 資本<br>準備<br>金 | その他<br>資本<br>剰余<br>金 | 資本<br>剰余<br>金<br>計 |               | 特別償却<br>準備金 | 圧縮積立<br>金 | 繰越利益<br>剰余金 | 繰越利益<br>剰余金 |                    |          |                |
| 当期首残高                   | 2,335,625 | 1,971,884     | 4,037                | 1,975,922          | 225,000       | 75,452      | 2,628     | 2,807,505   | 3,110,586   |                    | △ 50,709 | 7,371,424      |
| 当期変動額                   |           |               |                      |                    |               |             |           |             |             |                    |          |                |
| 剰余金の配当                  |           |               |                      |                    |               |             |           | △ 212,670   | △ 212,670   |                    |          | △ 212,670      |
| 特別償却準備金の取崩              |           |               |                      |                    |               | △ 31,884    |           | 31,884      | -           |                    |          | -              |
| 圧縮積立金の積立                |           |               |                      |                    |               |             | 3,215     | △ 3,215     | -           |                    |          | -              |
| 当期純利益                   |           |               |                      |                    |               |             |           | 939,602     | 939,602     |                    |          | 939,602        |
| 自己株式の取得                 |           |               |                      |                    |               |             |           |             |             |                    | △ 476    | △ 476          |
| 土地再評価差額金の取崩             |           |               |                      |                    |               |             |           | 3,525       | 3,525       |                    |          | 3,525          |
| 株主資本以外の項目<br>の当期変動額(純額) |           |               |                      |                    |               |             |           |             |             |                    |          |                |
| 当期変動額合計                 | -         | -             | -                    | -                  | -             | △ 31,884    | 3,215     | 759,126     | 730,457     |                    | △ 476    | 729,981        |
| 当期末残高                   | 2,335,625 | 1,971,884     | 4,037                | 1,975,922          | 225,000       | 43,568      | 5,843     | 3,566,631   | 3,841,043   |                    | △ 51,185 | 8,101,405      |

|                         | 評価・換算差額等                 |                  |                       | 純資産<br>合計  |
|-------------------------|--------------------------|------------------|-----------------------|------------|
|                         | その他<br>有価証券<br>評価差<br>額金 | 土地<br>再評価<br>差額金 | 評価・<br>換算差<br>額等<br>計 |            |
| 当期首残高                   | 647,446                  | 21,034,767       | 21,682,213            | 29,053,638 |
| 当期変動額                   |                          |                  |                       |            |
| 剰余金の配当                  |                          |                  |                       | △ 212,670  |
| 特別償却準備金の取崩              |                          |                  |                       | -          |
| 圧縮積立金の積立                |                          |                  |                       | -          |
| 当期純利益                   |                          |                  | 939,602               |            |
| 自己株式の取得                 |                          |                  |                       | △ 476      |
| 土地再評価差額金の取崩             |                          |                  |                       | 3,525      |
| 株主資本以外の項目<br>の当期変動額(純額) | 411,800                  | △ 3,525          | 408,275               | 408,275    |
| 当期変動額合計                 | 411,800                  | △ 3,525          | 408,275               | 1,138,256  |
| 当期末残高                   | 1,059,247                | 21,031,241       | 22,090,489            | 30,191,894 |

# 個別注記表

## 1. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

### (1) 資産の評価基準及び評価方法

#### (1) 有価証券の評価基準及び評価方法

子会社株式及び関連会社株式

移動平均法にもとづく原価法

その他有価証券

時価のあるもの 決算末日の市場価格等にもとづく時価法（評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は、移動平均法により算定）

時価のないもの 移動平均法にもとづく原価法

#### (2) たな卸資産の評価基準及び評価方法

評価基準は原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）

販売土地及び建物 個別法

貯蔵品 移動平均法

### (2) 固定資産の減価償却の方法

#### (1) 有形固定資産（リース資産を除く）

定率法を採用しております。ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備は除く）については定額法を採用しております。また、鉄・軌道事業固定資産の構築物のうち取替資産については取替法を採用しております。

（会計上の見積りの変更と区分することが困難な会計方針の変更）

法人税法の改正に伴い、当事業年度より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。

この変更による、当事業年度の損益に与える影響は軽微であります。

#### (2) 無形固定資産（リース資産を除く）

定額法を採用しております。なお、ソフトウェア（自社利用分）については、社内における利用可能期間（5年）にもとづく定額法によっております。

#### (3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

### (3) 引当金の計上基準

#### (1) 貸倒引当金

諸債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率による計算額を、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討した貸倒見積額を計上しております。

#### (2) 賞与引当金

従業員に支給する賞与に充てるため、当事業年度に負担すべき支給見込額を計上しております。

#### (3) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額にもとづき、当事業年度末において発生している額を計上しております。

なお、会計基準変更時差異については、当社保有株式による退職給付信託を設定し、残額を15年による按分額で費用処理しております。

過去勤務債務については、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（11年）による按分額を費用処理しております。

数理計算上の差異は、各事業年度の発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（11年）による按分額を、それぞれ発生翌事業年度より費用処理しております。

#### (4) 債務保証損失引当金

関係会社への債務保証等に係る損失に備えるため、保証先の財政状態等を勘案し、損失負担見込額を計上しております。

#### (5) 関係会社事業損失引当金

関係会社の事業に伴う損失に備えるため、関係会社の資産内容等を勘案し、当社が負担することとなる損失見込額を計上しております。

### (4) その他計算書類作成のための基本となる重要な事項

#### (1) 繰延資産の処理方法

社債発行費は支出時に全額費用処理しております。

#### (2) ヘッジ会計の処理

金利スワップについては特例処理の要件を満たしているため、特例処理を採用しております。

#### (3) 工事負担金等の会計処理

工事完成時に当該工事負担金等相当額を取得した固定資産の取得原価から直接減額して計上しております。

なお、損益計算書においては、工事負担金等受入額を「工事負担金等受入額」として特別利益に計上するとともに、固定資産の取得原価から直接減額した額を「固定資産圧縮損」として特別損失に計上しております。

(4) 消費税等の会計処理

税抜方式によっております。

なお、控除対象外消費税等は発生事業年度の期間費用としております。

(5) 追加情報

(役員退職慰労引当金)

当社は、役員の退任により支給する退職慰労金に充てるため、退職慰労金に関する内規にもとづく基準額を役員退職慰労引当金として計上しておりましたが、平成24年6月28日開催の定時株主総会において、役員退職慰労金制度を廃止し、制度廃止時点までの在任期間に対応した退職慰労金を打ち切り支給することを決議し、退任時に支給することといたしました。

これに伴い、当該株主総会までの期間に対応する役員退職慰労引当金相当額110,900千円は、固定負債の「その他の固定負債」に含めて表示しております。

## 2. 貸借対照表に関する注記

(1) 記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

(2) 担保に供している資産及び担保に係る債務

(1) 担保に供している資産

|            |                   |
|------------|-------------------|
| 貯蔵品        | 122,605千円         |
| 鉄・軌道事業固定資産 | 11,375,562        |
| 自動車事業固定資産  | 6,400,869         |
| 不動産事業固定資産  | 13,689,522        |
| 各事業関連固定資産  | 747,363           |
| 投資有価証券     | 1,551,729         |
| 計          | <u>33,887,652</u> |

(2) 担保に係る債務

|               |              |
|---------------|--------------|
| 長期借入金         | 12,624,244千円 |
| (1年内返済予定額を含む) |              |

(3) 有形固定資産の減価償却累計額 30,910,760千円

(4) 事業用固定資産

|        |              |
|--------|--------------|
| 有形固定資産 | 56,087,011千円 |
| 土地     | 39,319,729   |
| 建物     | 10,038,526   |
| 構築物    | 2,483,293    |
| 車両     | 3,022,362    |
| その他    | 1,223,100    |
| 無形固定資産 | 98,679       |

(5) 債務保証等

関係会社の銀行ほかの借入金等に対し、債務保証及び保証類似行為を行っております。なお、下記の金額は債務保証損失引当金を控除しております。

(1) 債務保証

|               |                  |
|---------------|------------------|
| 広電不動産(株)      | 870,000千円        |
| 広電観光(株)       | 40,000           |
| (株)ホテルニューヒロデン | 350,000          |
| 広電興産(株)       | 167,000          |
| (株)交通会館       | 207,814          |
| ひろでん中国新聞旅行(株) | 30,750           |
| 計             | <u>1,665,564</u> |

(2) 保証予約

|         |                |
|---------|----------------|
| 広電観光(株) | 160,000千円      |
| 計       | <u>160,000</u> |

(6) 関係会社に対する金銭債権及び金銭債務

|        |           |
|--------|-----------|
| 短期金銭債権 | 369,328千円 |
| 長期金銭債権 | 394,558   |
| 短期金銭債務 | 711,280   |
| 長期金銭債務 | 7,100     |

(7) 固定資産の取得原価から直接減額された工事負担金等累計額

固定資産のうち取得原価は下記の金額だけ国庫補助金、工事負担金等の受入のため圧縮記帳を行っております。

16,138,020千円

(8) 土地の再評価

土地の再評価に関する法律（平成10年3月31日公布法律第34号）及び土地の再評価に関する法律の一部を改正する法律（平成13年3月31日改正）にもとづき、事業用土地の再評価を行っております。

・再評価の方法

土地の再評価に関する法律施行令（平成10年3月31日公布政令第119号）第2条第3号に定める固定資産税評価額に合理的な調整を行って算定する方法にもとづいて算定しており、再評価差額のうち税効果相当額を固定負債の部に「再評価に係る繰延税金負債」として、その他の金額を純資産の部に「土地再評価差額金」として計上しております。

・再評価を行った年月日

平成13年3月31日

### 3. 損益計算書に関する注記

|                               |              |              |
|-------------------------------|--------------|--------------|
| (1) 記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。 |              |              |
| (2) 営業収益                      | 20,850,214千円 |              |
| (3) 営業費                       | 19,711,347千円 |              |
| 運送営業費及び売上原価                   |              | 15,309,598千円 |
| 販売費及び一般管理費                    |              | 1,736,267    |
| 諸税                            |              | 671,003      |
| 減価償却費                         |              | 1,994,478    |
| (4) 関係会社との取引高                 |              |              |
| 営業取引による取引高                    |              |              |
| 営業収益                          |              | 682,661千円    |
| 営業費                           |              | 1,412,957    |
| 営業取引以外による取引高                  |              | 850,476      |

### 4. 株主資本等変動計算書に関する注記

|                               |          |
|-------------------------------|----------|
| (1) 記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。 |          |
| (2) 当事業年度末における自己株式の種類及び株式数    |          |
| 普通株式                          | 129,388株 |

### 5. 税効果会計に関する注記

|                            |                   |
|----------------------------|-------------------|
| (1) 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因 |                   |
| 退職給付引当金                    | 345,326千円         |
| 長期未払金                      | 39,258            |
| 賞与引当金                      | 312,765           |
| 法定福利費未払費用                  | 44,025            |
| 貸倒引当金                      | 124,521           |
| 未払事業税                      | 55,365            |
| 債務保証損失引当金                  | 1,061,292         |
| 関係会社事業損失引当金                | 606,756           |
| 関係会社株式評価損                  | 1,619,508         |
| 繰延税金負債（前払年金費用）との相殺         | △465,827          |
| 繰延税金負債（その他有価証券評価差額金）との相殺   | △570,711          |
| その他                        | 107,450           |
| 繰延税金資産（負債）小計               | <u>3,279,732</u>  |
| 評価性引当金                     | <u>△3,497,380</u> |
| 繰延税金資産（負債）合計               | <u>△217,648</u>   |
| 繰延税金資産（負債）の純額              | <u>△217,648</u>   |



## 6. 1株当たり情報に関する注記

- |                |         |
|----------------|---------|
| (1) 1株当たり純資産額  | 496円89銭 |
| (2) 1株当たり当期純利益 | 15円46銭  |

## 7. 重要な後発事象に関する注記

当社は、平成25年1月30日開催の取締役会決議に基づき、当社の100%子会社である広電不動産株式会社を平成25年4月1日付で吸収合併しました。

### (1) 企業結合の目的

当社グループにおける当社及び広電不動産株式会社が営む不動産賃貸業について、各々が保有する賃貸用資産を一括して管理し、営業活動を行うことにより、当該事業の効率的な経営を実現することを目的としております。

### (2) 企業結合の法的形式

当社を存続会社、広電不動産株式会社を消滅会社とする吸収合併

### (3) 結合後企業の名称

広島電鉄株式会社

### (4) 実施する会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成20年12月26日)及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第10号 平成20年12月26日)に基づき、共通支配下の取引として会計処理を行う予定であります。

# 連結貸借対照表

(平成25年3月31日現在)

(単位:千円)

| 科 目           | 金 額               | 科 目                | 金 額               |
|---------------|-------------------|--------------------|-------------------|
| <b>(資産の部)</b> |                   | <b>(負債の部)</b>      |                   |
| <b>流動資産</b>   | 19,159,100        | <b>流動負債</b>        | 25,487,937        |
| 現金及び預金        | 6,229,959         | 支払手形及び買掛金          | 1,382,834         |
| 受取手形及び売掛金     | 1,621,112         | 短期借入金              | 12,840,472        |
| 販売土地及び建物      | 8,631,037         | 1年内償還予定の社債         | 479,500           |
| 未成工事支出金       | 213,815           | 未払金                | 3,177,988         |
| 商品及び製品        | 144,644           | 未払法人税等             | 885,292           |
| 原材料及び貯蔵品      | 391,339           | 未払消費税等             | 371,325           |
| 繰延税金資産        | 516,927           | 未払費用               | 816,049           |
| その他           | 1,417,668         | 預り金                | 1,244,462         |
| 貸倒引当金         | △ 7,404           | 賞与引当金              | 1,050,994         |
|               |                   | 役員賞与引当金            | 19,500            |
|               |                   | その他                | 3,219,516         |
| <b>固定資産</b>   | 72,889,407        | <b>固定負債</b>        | 32,360,850        |
| 有形固定資産        | 66,406,466        | 社債                 | 934,250           |
| 建物及び構築物       | 17,914,562        | 長期借入金              | 12,085,921        |
| 機械装置及び運搬具     | 4,540,103         | 繰延税金負債             | 653,598           |
| 土地            | 42,971,527        | 再評価に係る繰延税金負債       | 11,684,660        |
| 建設仮勘定         | 3,356             | 退職給付引当金            | 1,632,042         |
| その他           | 976,916           | 役員退職慰労引当金          | 59,846            |
| 無形固定資産        | 244,130           | その他                | 5,310,531         |
| 借地権           | 45,215            |                    |                   |
| その他           | 198,915           | <b>負債合計</b>        | <b>57,848,788</b> |
| 投資その他の資産      | 6,238,810         | <b>(純資産の部)</b>     |                   |
| 投資有価証券        | 3,935,339         | <b>株主資本</b>        | 11,368,531        |
| 長期貸付金         | 14,302            | 資本金                | 2,335,625         |
| 繰延税金資産        | 281,658           | 資本剰余金              | 1,972,899         |
| 前払年金費用        | 1,315,895         | 利益剰余金              | 7,150,936         |
| その他           | 799,746           | 自己株式               | △ 90,929          |
| 貸倒引当金         | △ 108,132         | <b>その他の包括利益累計額</b> | <b>22,111,187</b> |
|               |                   | その他有価証券評価差額金       | 1,079,945         |
|               |                   | 土地再評価差額金           | 21,031,241        |
|               |                   | <b>少数株主持分</b>      | <b>720,000</b>    |
|               |                   | <b>純資産合計</b>       | <b>34,199,719</b> |
| <b>資産合計</b>   | <b>92,048,507</b> | <b>負債純資産合計</b>     | <b>92,048,507</b> |

# 連結損益計算書

(平成24年4月1日から平成25年3月31日まで)

(単位：千円)

| 科 目                   | 金          | 額          |
|-----------------------|------------|------------|
| <b>営業収益</b>           |            | 41,616,082 |
| <b>営業費用</b>           |            |            |
| 運輸業等営業費及び売上原価         | 32,541,123 |            |
| 販売費及び一般管理費            | 7,637,852  | 40,178,975 |
| <b>営業利益</b>           |            | 1,437,106  |
| <b>営業外収益</b>          |            |            |
| 受取利息                  | 1,631      |            |
| 受取配当金                 | 74,627     |            |
| 持分法による投資利益            | 17,896     |            |
| 受託工事収入                | 124,477    |            |
| その他の                  | 123,072    | 341,705    |
| <b>営業外費用</b>          |            |            |
| 支払利息                  | 405,273    |            |
| 受託工事費用                | 124,477    |            |
| その他の                  | 136,184    | 665,935    |
| <b>経常利益</b>           |            | 1,112,876  |
| <b>特別利益</b>           |            |            |
| 固定資産売却益               | 61,503     |            |
| 投資有価証券売却益             | 16,826     |            |
| 工事負担金等受入額             | 2,309,745  |            |
| その他の                  | 183,727    | 2,571,803  |
| <b>特別損失</b>           |            |            |
| 固定資産売却損               | 74         |            |
| 固定資産除却損               | 18,565     |            |
| 固定資産圧縮損               | 981,990    |            |
| 減損損失                  | 126,347    |            |
| 投資有価証券評価損             | 60,547     |            |
| その他の                  | 1,399      | 1,188,925  |
| <b>税金等調整前当期純利益</b>    |            | 2,495,754  |
| 法人税、住民税及び事業税          | 991,426    |            |
| 法人税等調整額               | 27,738     | 1,019,164  |
| <b>少数株主損益調整前当期純利益</b> |            | 1,476,589  |
| 少数株主利益                |            | 89,404     |
| <b>当期純利益</b>          |            | 1,387,185  |

# 連結株主資本等変動計算書

(平成24年4月1日から平成25年3月31日まで)

(単位：千円)

|                         | 株 主 資 本   |           |           |          | 株主資本<br>合 計 |
|-------------------------|-----------|-----------|-----------|----------|-------------|
|                         | 資本金       | 資本剰余金     | 利益剰余金     | 自己株式     |             |
| 当期首残高                   | 2,335,625 | 1,972,899 | 5,972,895 | △ 90,431 | 10,190,989  |
| 当期変動額                   |           |           |           |          |             |
| 剰余金の配当                  |           |           | △ 212,670 |          | △ 212,670   |
| 当期純利益                   |           |           | 1,387,185 |          | 1,387,185   |
| 自己株式の取得                 |           |           |           | △ 498    | △ 498       |
| 土地再評価差額金の取崩             |           |           | 3,525     |          | 3,525       |
| 株主資本以外の項目の<br>当期変動額(純額) |           |           |           |          |             |
| 当期変動額合計                 | -         | -         | 1,178,040 | △ 498    | 1,177,542   |
| 当期末残高                   | 2,335,625 | 1,972,899 | 7,150,936 | △ 90,929 | 11,368,531  |

|                         | その他の包括利益累計額                   |                       |                                 | 少 数 株 主<br>持 分 | 純資産合計      |
|-------------------------|-------------------------------|-----------------------|---------------------------------|----------------|------------|
|                         | そ の 他<br>有 価 証 券<br>評 価 差 額 金 | 土 地<br>再 評 価<br>差 額 金 | そ の 他 の 包 括<br>利 益 累 計 額<br>合 計 |                |            |
| 当期首残高                   | 656,119                       | 21,034,767            | 21,690,886                      | 639,079        | 32,520,956 |
| 当期変動額                   |                               |                       |                                 |                |            |
| 剰余金の配当                  |                               |                       |                                 |                | △ 212,670  |
| 当期純利益                   |                               |                       |                                 |                | 1,387,185  |
| 自己株式の取得                 |                               |                       |                                 |                | △ 498      |
| 土地再評価差額金の取崩             |                               |                       |                                 |                | 3,525      |
| 株主資本以外の項目の<br>当期変動額(純額) | 423,825                       | △ 3,525               | 420,300                         | 80,920         | 501,221    |
| 当期変動額合計                 | 423,825                       | △ 3,525               | 420,300                         | 80,920         | 1,678,763  |
| 当期末残高                   | 1,079,945                     | 21,031,241            | 22,111,187                      | 720,000        | 34,199,719 |

# 連結注記表

## 1. 連結計算書類作成のための基本となる重要な事項に関する注記

### (1) 連結の範囲に関する事項

#### (1) 連結子会社の数及び主要な連結子会社の名称

連結子会社の数 15社

主要な連結子会社の名称

広電不動産(株)、(株)広電ストア、広電建設(株)、広電観光(株)、備北交通(株)、(株)広電宮島ガーデン、宮島松大汽船(株)、(株)ヒロデンプラザ、(株)グリーンバーズ・ヒロデン、(株)ホテルニューヒロデン、広電興産(株)、エイチ・ディー西広島(株)、広島観光開発(株)、(株)交通会館、芸陽バス(株)

#### (2) 主要な非連結子会社の名称等

主要な非連結子会社の名称

(有)やまとタクシー、広島観光汽船(株)、(有)広電商事

連結の範囲から除いた理由

非連結子会社は、その総資産、営業収益、当期純損益及び利益剰余金等からみて、いずれも小規模会社であり、かつ、全体として連結計算書類に重要な影響を及ぼしていないため、連結の範囲から除外しております。

### (2) 持分法の適用に関する事項

持分法適用の関連会社の数 2社

主要な会社等の名称

大亜工業(株)、ひろでん中国新聞旅行(株)

持分法非適用会社について持分法を適用しない理由

持分法を適用していない非連結子会社は、それぞれ連結純損益及び利益剰余金等に及ぼす影響が軽微であり、かつ、全体としても重要性がないため持分法の適用から除外しております。

### (3) 連結子会社の事業年度等に関する事項

すべての連結子会社の事業年度の末日と連結決算日は一致しております。

### (4) 会計処理基準に関する事項

#### (1) 資産の評価基準及び評価方法

##### ① 有価証券

その他有価証券

時価のあるもの

決算末日の市場価格等にもとづく時価法（評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は、移動平均法により算定）

時価のないもの

移動平均法にもとづく原価法

② たな卸資産

評価基準は原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）

|          |       |
|----------|-------|
| 販売土地及び建物 | 個別法   |
| 商 品      | 売価還元法 |
| 貯 蔵 品    | 移動平均法 |

(2) 固定資産の減価償却の方法

① 有形固定資産（リース資産を除く）

原則として定率法を採用しております。ただし、ゴルフ場施設と平成10年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備は除く）については定額法を採用しております。また、鉄軌道事業固定資産の構築物のうち取替資産については取替法を採用しております。

（会計上の見積りの変更と区分することが困難な会計方針の変更）

法人税法の改正に伴い、当連結会計年度より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。

この変更による、当連結会計年度の損益に与える影響は軽微であります。

② 無形固定資産（リース資産を除く）

定額法を採用しております。なお、ソフトウェア（自社利用分）については、社内における利用可能期間（5年）にもとづく定額法によっております。

③ リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

(3) 引当金の計上基準

① 貸倒引当金

諸債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率による計算額を、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討した貸倒見積額を計上しております。

② 賞与引当金

従業員に支給する賞与に充てるため、当連結会計年度に負担すべき支給見込額を計上しております。

③ 役員賞与引当金

役員に支給する賞与に充てるため、当連結会計年度に負担すべき支給見込額を計上しております。

④ 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額にもとづき、当連結会計年度末に発生している額を計上しております。

なお、会計基準変更時差異については、当社保有株式による退職給付信託を設定し、残額を主として15年による按分額で費用処理しております。

過去勤務債務については、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（11年）による按分額を費用処理しております。

数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（11年）による按分額を、それぞれ発生の際連結会計年度より費用処理しております。

⑤ 役員退職慰労引当金

役員の退任により支給する退職慰労金に充てるため、退職慰労金に関する内規にもとづく基準額を計上しております。

(4) その他連結計算書類作成のための基本となる重要な事項

① 重要な収益及び費用の計上基準

完成工事高の計上基準

当連結会計年度に着手した工事契約から当連結会計年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事については工事進行基準（工事の進捗率の見積りは原価比例法）を、その他の工事については工事完成基準を適用しております。

② 重要な繰延資産の処理方法

社債発行費は支出時に全額費用処理しております。

③ ヘッジ会計の処理

金利スワップについては特例処理の要件を満たしているため、特例処理を採用しております。

④ 工事負担金等の会計処理方法

工事完成時に当該工事負担金等相当額を取得した固定資産の取得原価から直接減額して計上しております。

なお、連結損益計算書においては、工事負担金等受入額を「工事負担金等受入額」として特別利益に計上するとともに、固定資産の取得原価から直接減額した額を「固定資産圧縮損」として特別損失に計上しております。

⑤ 消費税等の会計処理

税抜方式によっております。なお、控除対象外消費税等は、発生連

結会計年度の期間費用としております。

- ⑥ のれんの償却方法及び償却期間  
5年間で均等償却しております。

(5) 追加情報

(役員退職慰労引当金)

当社は、役員の退任により支給する退職慰労金に充てるため、退職慰労金に関する内規にもとづく基準額を役員退職慰労引当金として計上していましたが、平成24年6月28日開催の定時株主総会において、役員退職慰労金制度を廃止し、制度廃止時点までの在任期間に対応した退職慰労金を打ち切り支給することを決議し、退任時に支給することといたしました。

これに伴い、当該株主総会までの期間に対応する役員退職慰労引当金相当額110,900千円は、固定負債の「その他」に含めて表示しております。

## 2. 連結貸借対照表に関する注記

(1) 記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

(2) 担保に供している資産及び担保に係る債務

(1) 担保に供している資産

|           |                   |
|-----------|-------------------|
| 現金及び預金    | 13,000千円          |
| 原材料及び貯蔵品  | 122,605           |
| 建物及び構築物   | 10,483,284        |
| 機械装置及び運搬具 | 2,378,066         |
| 土地        | 24,297,555        |
| その他       | 128,001           |
| 投資有価証券    | 1,551,729         |
| 計         | <u>38,974,242</u> |

(2) 担保に係る債務

|               |                   |
|---------------|-------------------|
| 短期借入金         | 200,000千円         |
| 社債            | 897,500           |
| 長期借入金         | 13,362,023        |
| (1年内返済予定額を含む) |                   |
| 計             | <u>14,459,523</u> |

(3) 有形固定資産の減価償却累計額 48,998,643千円

(4) 債務保証

連結子会社以外の会社の代理店契約にもとづく債務保証を行っております。

|               |          |
|---------------|----------|
| ひろでん中国新聞旅行(株) | 30,750千円 |
|---------------|----------|



#### (5) 土地の再評価

当社において、土地の再評価に関する法律（平成10年3月31日公布法律第34号）及び土地の再評価に関する法律の一部を改正する法律（平成13年3月31日改正）にもとづき、事業用土地の再評価を行っております。

##### ・再評価の方法

土地の再評価に関する法律施行令（平成10年3月31日公布政令第119号）第2条第3号に定める固定資産税評価額に合理的な調整を行って算定する方法にもとづいて算定しており、再評価差額のうち税効果相当額を固定負債の部に「再評価に係る繰延税金負債」として、その他の金額を純資産の部に「土地再評価差額金」として計上しております。

##### ・再評価を行った年月日

平成13年3月31日

### 3. 連結損益計算書に関する注記

記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

### 4. 連結株主資本等変動計算書に関する注記

(1) 記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

(2) 当連結会計年度の末日における発行済株式の種類及び総数

普通株式 60,891,000株

(3) 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

| 決 議                  | 株式の種類 | 配当金の総額<br>(千円) | 1株当たり<br>配当額(円) | 基準日            | 効力発生日          |
|----------------------|-------|----------------|-----------------|----------------|----------------|
| 平成24年6月28日<br>定時株主総会 | 普通株式  | 212,670        | 3.50            | 平成24年<br>3月31日 | 平成24年<br>6月29日 |

(注) 1株当たり配当額3.50円には、電車開業100周年に伴う記念配当1.00円が含まれております。

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力が翌連結会計年度となるもの

平成25年6月27日開催の定時株主総会の議案として、普通株式の配当に関する事項を次のとおり提案しております。

① 配当金の総額 212,665千円

② 配当の原資 利益剰余金

|            |            |
|------------|------------|
| ③ 1株当たり配当額 | 3円50銭      |
| ④ 基準日      | 平成25年3月31日 |
| ⑤ 効力発生日    | 平成25年6月28日 |

## 5. 金融商品に関する注記

### (1) 金融商品の状況に関する事項

当社及び連結子会社は、資金運用については短期的な預金等に限定し、銀行等金融機関からの借入等により資金を調達しております。借入金の用途は運転資金（主として短期）及び設備投資資金（長期）であります。デリバティブは、一部の長期借入金の金利水準の変動によるリスクをヘッジするため、金利スワップ取引を利用しており、投機目的では利用しない方針であります。

受取手形及び売掛金に係る取引先の信用リスクは、各事業部門において、取引先ごとに期日及び残高を管理し、財務状況の悪化等による回収懸念の早期把握を図っております。また、投資有価証券は主として株式であり、定期的に時価や発行体の財務状況等を把握しております。

### (2) 金融商品の時価等に関する事項

平成25年3月31日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

(単位：千円)

|                      | 連結貸借対照表<br>計上額 | 時 価        | 差 額    |
|----------------------|----------------|------------|--------|
| (1)現金及び預金            | 6,229,959      | 6,229,959  | -      |
| (2)受取手形及び売掛金         | 1,621,112      | 1,621,112  | -      |
| (3)投資有価証券<br>その他有価証券 | 3,336,396      | 3,336,396  | -      |
| 資産計                  | 11,187,468     | 11,187,468 | -      |
| (4)支払手形及び買掛金         | 1,382,834      | 1,382,834  | -      |
| (5)短期借入金             | 7,981,000      | 7,981,000  | -      |
| (6)未払金               | 3,177,988      | 3,177,988  | -      |
| (7)長期借入金             | 16,945,393     | 16,988,711 | 43,317 |
| (8)社債                | 1,413,750      | 1,415,595  | 1,845  |
| 負債計                  | 30,900,966     | 30,946,129 | 45,162 |
| (9)デリバティブ取引          | -              | -          | -      |

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

- (1)現金及び預金、並びに(2)受取手形及び売掛金  
これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にはほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。
- (3)投資有価証券  
これらの時価について、株式は取引所の価格によっております。
- (4)支払手形及び買掛金、(5)短期借入金、並びに(6)未払金  
これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にはほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。
- (7)長期借入金及び(8)社債  
これらの時価については、元利金の合計額を同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いて算定する方法によっております。変動金利による長期借入金は金利スワップの特例処理の対象とされており(下記(9)参照)、当該金利スワップと一体として処理された元利金の合計額を、同様の借入を行った場合に適用される合理的に見積もられる利率で割り引いて算定する方法によっております。
- (9)デリバティブ取引  
金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております(上記(7)参照)
2. 非上場株式(連結貸借対照表計上額393,362千円)、子会社株式及び関連会社株式(連結貸借対照表計上額205,579千円)は、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積もること等ができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(3)投資有価証券 その他有価証券」には含めておりません。

## 6. 賃貸等不動産に関する注記

### (1) 賃貸等不動産の状況に関する事項

当社及び一部の子会社では、広島県内において、賃貸用のオフィスビル(土地を含む)を有しております。なお、賃貸オフィスビルの一部については、当社及び一部の子会社が使用しているため、賃貸等不動産として使用される部分を含む不動産としております。

### (2) 賃貸等不動産の時価等に関する事項

(単位：千円)

|                        | 連結貸借対照表計上額 | 時 価        |
|------------------------|------------|------------|
| 賃貸等不動産                 | 24,438,731 | 28,245,007 |
| 賃貸等不動産として使用される部分を含む不動産 | 7,692,209  | 7,814,163  |

(注) 1. 連結貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額及び減損損失累計額を控除した金額であります。

## 2. 時価の算定方法

主要な物件については、「不動産鑑定評価基準」に基づいて自社で算定した金額（指標等を用いて調整を行ったものを含む。）、その他の物件については、一定の評価額等が適切に市場価格を反映していると考えられるため、当該評価額や連結貸借対照表計上額をもって時価としております。

## 7. 1株当たり情報に関する注記

- |                |         |
|----------------|---------|
| (1) 1株当たり純資産額  | 551円90銭 |
| (2) 1株当たり当期純利益 | 22円87銭  |

## 8. 重要な後発事象に関する注記

当社は、平成25年1月30日開催の取締役会決議に基づき、当社の100%子会社である広電不動産株式会社を平成25年4月1日付で吸収合併しました。

### (1) 企業結合の目的

当社グループにおける当社及び広電不動産株式会社が営む不動産賃貸業について、各々が保有する賃貸用資産を一括して管理し、営業活動を行うことにより、当該事業の効率的な経営を実現することを目的としております。

### (2) 企業結合の法的形式

当社を存続会社、広電不動産株式会社を消滅会社とする吸収合併

### (3) 結合後企業の名称

広島電鉄株式会社

### (4) 実施する会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」（企業会計基準第21号 平成20年12月26日）及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第10号 平成20年12月26日）に基づき、共通支配下の取引として会計処理を行う予定であります。

# 会計監査人の監査報告書謄本

## 独立監査人の監査報告書

平成 25 年 5 月 10 日

広島電鉄株式会社  
取締役会 御中

有限責任 あずさ 監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 濱田 芳弘 ㊞

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 河合 聡一郎 ㊞

当監査法人は、会社法第436条第2項第1号の規定に基づき、広島電鉄株式会社の平成24年4月1日から平成25年3月31日までの第104期事業年度の計算書類、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表並びにその附属明細書について監査を行った。

### 計算書類等に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して計算書類及びその附属明細書を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない計算書類及びその附属明細書を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から計算書類及びその附属明細書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に計算書類及びその附属明細書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、計算書類及びその附属明細書の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による計算書類及びその附属明細書の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、計算書類及びその附属明細書の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての計算書類及びその附属明細書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 監査意見

当監査法人は、上記の計算書類及びその附属明細書が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、当該計算書類及びその附属明細書に係る期間の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

# 連結計算書類に係る会計監査人の監査報告書謄本

## 独立監査人の監査報告書

平成 25 年 5 月 10 日

広島電鉄株式会社  
取締役会 御中

有限責任 あずさ 監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 濱田 芳弘 ㊞  
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 河合 聡一郎 ㊞  
業務執行社員

当監査法人は、会社法第444条第4項の規定に基づき、広島電鉄株式会社の平成24年4月1日から平成25年3月31日までの連結会計年度の連結計算書類、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表について監査を行った。

### 連結計算書類に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結計算書類を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結計算書類を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結計算書類に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結計算書類に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結計算書類の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結計算書類の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結計算書類の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結計算書類の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 監査意見

当監査法人は、上記の連結計算書類が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、広島電鉄株式会社及び連結子会社からなる企業集団の当該連結計算書類に係る期間の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

# 監査役会の監査報告書謄本

## 監 査 報 告 書

当監査役会は、平成24年4月1日から平成25年3月31日までの第104期事業年度の取締役の職務の執行に関して、各監査役が作成した監査報告書に基づき、審議の上、本監査報告書を作成し、以下のとおり報告いたします。

### 1. 監査役及び監査役会の監査の方法及びその内容

監査役会は、監査の方針等を定め、各監査役から監査の実施状況及び結果について報告を受けるほか、取締役等及び会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。

各監査役は、監査役会が定めた監査役監査の基準に準拠し、監査の方針等に従い、取締役、内部監査部門その他の使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、取締役会その他重要な会議に出席し、取締役及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、本社及び主要な事業所において業務及び財産の状況を調査いたしました。また、取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制その他株式会社の業務の適正を確保するために必要なものとして会社法施行規則第100条第1項及び第3項に定める体制の整備に関する取締役会決議の内容及び当該決議に基づき整備されている体制（内部統制システム）の状況を監視及び検証いたしました。

なお、財務報告に係る内部統制については、取締役等及び有限責任 あずさ監査法人から当該内部統制の評価及び監査の状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。

子会社については、子会社の取締役及び監査役等と意思疎通及び情報の交換を図り、必要に応じて子会社から事業の報告を受けました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書について検討いたしました。

さらに、会計監査人が独立の立場を保持し、かつ、適正な監査を実施しているかを監視及び検証するとともに、会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。また、会計監査人から「職務の遂行が適正に行われることを確保するための体制」（会社計算規則第131条各

号に掲げる事項)を「監査に関する品質管理基準」(平成17年10月28日企業会計審議会)等に従って整備している旨の通知を受け、必要に応じて説明を求めました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る計算書類(貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表)及びその附属明細書並びに連結計算書類(連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表)について検討いたしました。

## 2. 監査の結果

### (1) 事業報告等の監査結果

- 一 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、会社の状況を正しく示しているものと認めます。
- 二 取締役の職務の執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実は認められません。
- 三 内部統制システムに関する取締役会決議の内容は相当であると認めます。また、当該内部統制システムに関する取締役の職務の執行についても、財務報告に係る内部統制を含め、指摘すべき事項は認められません。

### (2) 計算書類及びその附属明細書の監査結果

会計監査人 有限責任あずさ監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。

### (3) 連結計算書類の監査結果

会計監査人 有限責任あずさ監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。

平成25年5月10日

広島電鉄株式会社 監査役会

常勤監査役 迫 孝 治 ㊟

社外監査役 笠 井 久 雄 ㊟

社外監査役 高 橋 徹 ㊟

以 上



# 株主総会参考書類

## 議案および参考事項

### 第1号議案 剰余金の配当の件

当期の剰余金の配当につきましては、当社を取り巻く経営環境が依然として厳しい業況にありますなか、財務状況や今後の見通しなどを慎重に検討いたしました結果、次のとおりといたしたいと存じます。

#### 期末配当に関する事項

(1) 配当財産の種類

金銭といたします。

(2) 株主に対する配当財産の割当てに関する事項およびその総額

当期の期末配当につきましては、普通配当を前期2円50銭（記念配当1円00銭を除く）より1円00銭増配して、普通株式1株につき金3円50銭 総額212,665,642円といたしたいと存じます。

(3) 剰余金の配当が効力を生じる日

平成25年6月28日

## 第2号議案 定款一部変更の件

### 1. 変更の理由

- (1) 事業活動の拡大・多様化に備え、現行定款第2条（目的）に目的事項の追加・変更を行うものであります。

### 2. 変更の内容

変更の内容は次のとおりであります。

（下線は変更部分であります）

| 現 行 定 款  | 変 更 案   |
|--|---|
| <p>第2条（目 的）</p> <p>当社は、次の事業を営むことを目的とする。</p> <p>1. ～ 9.     〔記載省略〕</p> <p><u>10. 電子計算機による事務受託業</u></p> <p>                  〔新 設〕</p> <p><u>11. 一般事務、経理事務および人事労務に関する事務の事務処理請負業</u></p> <p><u>12. ～ 19.</u>     〔記載省略〕</p> | <p>第2条（目 的）</p> <p>当社は、次の事業を営むことを目的とする。</p> <p>1. ～ 9.     〔現行どおり〕</p> <p><u>10. 情報処理サービス業および情報提供サービス業</u></p> <p><u>11. コンピュータシステムおよびソフトウェアの企画、設計、開発、販売および保守業務</u></p> <p><u>12. 経営、財務、経理、人事および総務に関するコンサルティングおよび事務代行業務</u></p> <p><u>13. ～ 20.</u>     〔現行どおり〕</p> |

### 第3号議案 取締役9名選任の件

現在の取締役9名（全員）は、本総会終結の時をもって任期満了となりますので、取締役9名の選任をお願いするものであります。

取締役候補者は次のとおりであります。

| 候補者番号  | 氏名（生年月日）   | 略歴、地位、担当および重要な兼職の状況   | 所有する当社株式の数 |
|--------|--|---|------------|
| 1      | <p>むくだ まさお<br/> <b>椋田 昌夫</b><br/>           （昭和21年11月24日生）</p> | <p>昭和44年3月 当社入社<br/>           平成15年6月 当社取締役M・Sカンパニー<br/>           プレジデント<br/>           平成20年6月 当社常務取締役<br/>           平成22年6月 当社専務取締役<br/>           平成25年1月 当社代表取締役社長（現在）<br/>           （重要な兼職の状況）<br/>           (株)広電ストア 代表取締役会長<br/>           (株)ホテルニューヒロデン 代表取締役社長<br/>           広電興産(株) 代表取締役社長<br/>           広島ゴルフ観光(株) 代表取締役社長</p> | 39,000株    |
| 2<br>※ | <p>さこ こうじ<br/> <b>迫 孝治</b><br/>           （昭和24年9月11日生）</p>    | <p>昭和47年3月 当社入社<br/>           平成10年5月 当社人材管理グループマネジャー<br/>           平成16年6月 広電建設株式会社監査役<br/>           平成16年6月 株式会社広電ストア監査役<br/>           平成16年6月 広電不動産株式会社監査役<br/>           平成16年6月 当社常勤監査役（現在）</p>  | 20,009株    |
| 3      | <p>なごし はじめ<br/> <b>名越 元</b><br/>           （昭和22年5月29日生）</p>   | <p>昭和47年3月 当社入社<br/>           平成17年6月 当社取締役不動産カンパニー<br/>           プレジデント（現在）</p>  | 8,000株     |
| 4      | <p>おかもと しげる<br/> <b>岡本 繁</b><br/>           （昭和30年12月15日生）</p> | <p>昭和54年3月 当社入社<br/>           平成13年6月 当社都市圏輸送グループマネジャー<br/>           平成17年6月 エイチ・ディー西広島(株)<br/>           代表取締役社長<br/>           平成20年6月 当社取締役バスカンパニー<br/>           プレジデント（現在）<br/>           （重要な兼職の状況）<br/>           (株)グリーンバズ・ヒロデン 代表取締役社長</p>   | 14,000株    |

| 候補者番号  | 氏名(生年月日)                           | 略歴、地位、担当および重要な兼職の状況  | 所有する当社株式の数 |
|--------|------------------------------------|--|------------|
| 5      | くらもと ゆうじ<br>倉本 勇治<br>(昭和28年5月17日生) | 昭和52年3月 当社入社<br>平成16年6月 当社人材管理グループマネジャー<br>平成20年6月 当社取締役M・Sカンパニー<br>バイスプレジデント<br>平成22年6月 当社取締役M・Sカンパニー<br>プレジデント(現在)           | 11,000株    |
| 6      | ふじもと ひでき<br>藤元 秀樹<br>(昭和29年12月7日生) | 昭和54年3月 当社入社<br>平成14年7月 当社電車技術グループマネジャー<br>平成20年6月 当社取締役電車カンパニー<br>バイスプレジデント<br>平成23年6月 当社取締役電車カンパニー<br>プレジデント(現在)             | 9,000株     |
| 7      | ぬまた たくぞう<br>沼田 卓壮<br>(昭和23年1月3日生)  | 昭和45年4月 祇園町採用<br>平成15年4月 広島市南区長<br>平成18年4月 広島市人事委員会事務局長<br>平成20年4月 (助)広島勤労者職業福祉センター<br>理事長<br>平成21年6月 当社取締役総合企画担当(現在)          | 1,000株     |
| 8<br>※ | かりい やすひろ<br>仮井 康裕<br>(昭和34年9月25日生) | 昭和58年3月 当社入社<br>平成16年6月 当社バス企画グループマネジャー<br>平成24年4月 当社執行役員呉バスカンパニー<br>プレジデント(現在)  | 3,000株     |
| 9      | たむら こうぞう<br>田村 興造<br>(昭和26年6月22日生) | 昭和52年4月 広島ガス(株)入社<br>平成17年6月 同社執行役員原料部長<br>平成21年6月 同社取締役執行役員<br>経営統括本部経営企画部長<br>平成22年4月 同社代表取締役社長執行役員(現在)<br>平成24年6月 当社取締役(現在) | なし         |

- (注) 1. ※は、新任候補者であります。  
2. 各候補者と当社との間には、いずれも特別の利害関係はありません。  
3. 迫 孝治氏は、本総会終結の時をもって当社監査役を、辞任により退任される予定であります。  
4. 田村興造氏は、社外取締役候補者であります。  
5. 田村興造氏を社外取締役候補者とした理由は、上場会社の取締役として得られた経験と知識を、当社の経営にいかしていただくことで、当社の経営体制がさらに強化できると判断し、引き続き社外取締役として選任をお願いするものであります。  
6. 田村興造氏の当社社外取締役就任期間は、本総会終結の時をもって1年となります。  
7. 当社は、会社法第427条第1項の規定により、社外取締役田村興造氏との間に、任務を怠ったことによる損害賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく責任の限度額は、法令が規定する額としており、本総会において、同氏が再任され就任した場合、本契約を継続する予定であります。

#### 第4号議案 監査役1名選任の件

本総会終結の時をもって、監査役の迫 孝治氏は辞任されますので、監査役1名の選任をお願いいたしたいと存じます。

なお、監査役候補者尾崎 宏明氏は、監査役迫 孝治氏の補欠として選任されることとなりますので、その任期は当社定款の定めにより、退任された監査役の任期の満了すべき時までとなります。

また、本議案につきましては、監査役会の同意を得ております。

監査役候補者は次のとおりであります。

| 氏名（生年月日）                                 | 略歴、地位および重要な兼職の状況   | 所有する<br>当社株式<br>の<br>数 |
|--|--|------------------------|
| ※<br>おさき ひろあき<br>尾崎 宏明<br>(昭和28年11月15日生) | 昭和52年3月 当社入社<br>平成14年7月 当社総合管理グループマネジャー<br>平成16年10月 広島観光開発㈱<br>代表取締役社長（現在）<br>平成25年2月 宮島松大汽船㈱<br>代表取締役社長（現在） | 9,000株                 |

- (注) 1. ※は、新任候補者であります。  
2. 候補者と当社との間には、特別の利害関係はありません。  
3. 尾崎宏明氏は、平成25年6月19日をもって広島観光開発㈱代表取締役社長、宮島松大汽船㈱代表取締役社長を退任される予定であります。

以 上





## 株主総会会場ご案内略図

会場 広島市中区東千田町二丁目9番29号

広電本社ビル3階会議室

交通 電車、広電本社前停留場下車

公共交通機関等をご利用いただき、お車でのご来場はご遠慮くださいますようお願い申し上げます。

